



# 日 鶏 協 ニ ュ ー ス

2025年8月号  
一般社団法人日本養鶏協会

## INDEX

- ・ 第9期家畜防疫互助事業にご参加を！ ..... 1
- ・ 令和7年鳥インフルエンザ経営再建保険の募集について ..... 2
- ・ 農林水産省令和7年度消費・安全対策交付金 家畜衛生の推進（ハード）について.. 3
- ・ 2024年～2025年シーズンにおける高病原性鳥インフルエンザ発生に係る  
疫学調査結果について ..... 4-5
- ・ 【中央鶏卵規格取引協議会からのお知らせ】  
令和7年度鶏卵規格取引研修会 締切迫る！ ..... 6
- ・ 畜産統計（農林水産省） ..... 7
- ・ 統計データ ..... 8
- ・ 協会活動報告 ..... 9

## 第9期家畜防疫互助事業にご参加を！

5月29日に、第9期（令和7年度）家畜防疫互助事業のご案内を、第9期にご参加の皆様と日本養鶏協会会員で第8期加入されていて第9期末参加の皆様にお送りさせていただきました。

家畜防疫互助事業は、鳥インフルエンザが万一発生した場合に、安心して経営を維持・継続ができるように、生産者が自ら積み立てを行い、発生農場が経営再開までに必要な経費等を相互に支援する仕組みに、国が補助する制度です。

鳥インフルエンザは、令和4年度、令和6年度の大量発生、また5年連続の発生となり、「恒常化」のおそれもみられるところです。次シーズンも大発生の可能性は捨てきれず、世界的な脅威となっています。

皆様におかれましては、引き続き防疫に努めていただきますとともに、万が一に備え、是非、家畜防疫互助事業にご参加いただけますようお願い申し上げます。

### 生産者積立金の単価

鶏 (家族型)	採卵鶏（成鶏）	1羽当たり	6円
	採卵鶏（育成鶏）	1羽当たり	3円
鶏 (企業型)	採卵鶏（成鶏）	1羽当たり	8円
	採卵鶏（育成鶏）	1羽当たり	4円

### 交付上限単価

鶏 (家族型)	採卵鶏（成鶏）	1羽当たり	790円
	採卵鶏（育成鶏）	1羽当たり	370円
鶏 (企業型)	採卵鶏（成鶏）	1羽当たり	970円
	採卵鶏（育成鶏）	1羽当たり	450円

【お問い合わせ】

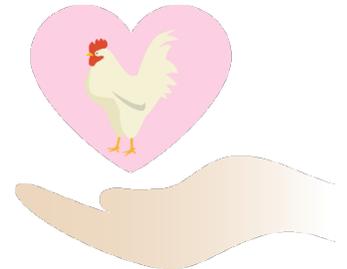
業務第1部 Tel : 03-3297-5515



## 令和7年 鳥インフルエンザ経営再建保険の募集について

会員の皆様が安心して採卵養鶏業に従事できるよう、高病原性鳥インフルエンザに感染した場合に経営再建を目指す採卵鶏農家を日鶏協は全力でサポートします。

会員の皆様へは7月18日（金）に関係書類一式を送付させていただきましたが、期限も迫って参りました。改めて令和7年の補償内容等、以下概要をご案内いたします。



### 令和7年 鳥インフルエンザ経営再建保険

#### (1) 募集要領

申込期限	<b>令和7年9月 5日（金）</b>
保険料払込期限	<b>令和7年9月12日（金）</b>
保険期間	令和7年10月1日(水)～令和8年9月30日(水)(12ヶ月)
保険料	成鶏1羽あたり12.10円、育成鶏1羽あたり6.00円 (高病原性鳥インフルエンザ補償)
引受保険会社	共栄火災海上保険株式会社（幹事）

#### (2) 補償内容

保険金額	成鶏1羽あたり430円、育成鶏1羽あたり180円
総支払限度額(*1)	3億円（募集全体での合計保険料8,000万円以上の場合） ～ 12億円（同じく10.6億以上の場合）

(\*1)総支払限度額は、合計保険料に応じた金額となります。

(\*1)総支払限度額（確定）は、保険始期（10月1日）以降、加入者証にて通知されます。

#### (3) 保険金支払

経営再建を問わず、保険金を一括でお支払いします。(\*2)

死亡・殺処分羽数が10万羽を超える場合は、自己負担（免責）が発生します。

(\*2)大量発生等により年間支払限度額を超える支払が想定される場合は、その限りではありません。協会にて加入者への公平な保険金支払いを行います。

既加入者の皆様はよくご存じのことと思いますが、**本保険は日本養鶏協会会員様限定で加入することのできる団体保険となっております。**

既にお手続きをお済ませの方には重ね重ねのご案内となり、ご容赦願います。

#### 【お問い合わせ】

業務第1部 Tel : 03-3297-5515



## 農林水産省令和7年度消費・安全対策交付金 家畜衛生の推進（ハード）について

既にご承知のとおり、令和7年度消費・安全対策交付金のうち家畜衛生の推進（ハード）では、高病原性鳥インフルエンザ対策として、飼養衛生管理の向上（鶏舎入気口フィルター、細霧装置）や農場の分割管理に取り組む場合に追加で必要となる施設（更衣室、車両消毒施設、農場境界柵、集卵ベルト、堆肥舎等）の整備に対する支援をしております。

予算枠、実施要件等の詳細については、各都道府県の家畜衛生担当部局にお問い合わせください。

○ 消費・安全対策交付金のうち **家畜衛生の推進（ハード）** 【令和7年度予算概算決定額 1,896（1,720）百万円の内数】  
（令和6年度補正予算額 1,147百万円の内数）

**<対策のポイント>**

家畜の伝染性疾病に係る発生予防・まん延防止の取組を強化するため、①家畜保健衛生所等における家畜等の病性鑑定<sup>※</sup>の適切な実施、②特に高病原性鳥インフルエンザ及び豚熱・アフリカ豚熱対策に資する飼養衛生管理の向上、③殺処分の影響を抑制するための農場の分割管理にそれぞれ必要な施設整備を支援します。

**<事業目標>**

家畜の伝染性疾病に係るまん延防止措置が適切に実施されていないために疾病をまん延させてしまった事例の件数を0件とすること

**<事業の内容>**

**1. 病性鑑定の適切な実施**

都道府県の家畜保健衛生所等において、家畜の病性鑑定や野生動物の検査を適切に実施するため、病性鑑定検査施設及び関連施設（採材、病性鑑定畜の保管、感染性廃棄物処理等のための施設）の整備を支援します。

**2. 飼養衛生管理の向上**

特に高病原性鳥インフルエンザ対策に資する鶏舎入気口フィルター及び細霧装置並びに豚熱・アフリカ豚熱対策に資する養豚場の野生動物侵入防止壁の整備を支援します。

**3. 農場の分割管理**

高病原性鳥インフルエンザや豚熱等の発生に際し、殺処分の影響を抑制するため、農場の分割管理に取り組む場合に追加で必要となる施設（更衣室、車両消毒施設、農場境界柵、集卵ベルト、堆肥舎等）の整備を支援します。

**<事業イメージ>**

**<1の事業>**

家畜保健衛生所等において、家畜や野生動物の病性鑑定を適切に実施するため、  
・遺伝子検査  
・解剖及び採材  
・病性鑑定畜の保管  
等に必要な施設を整備

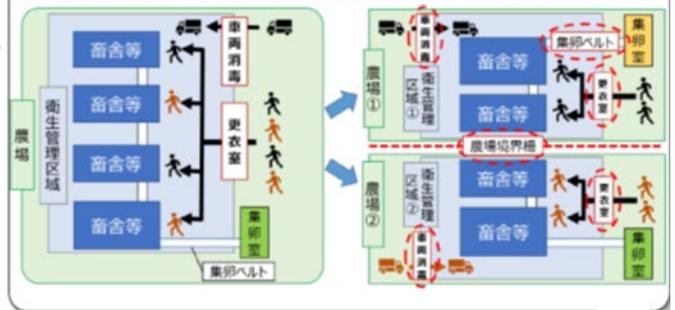
**<2の事業>**

野生動物侵入防止壁の例



**<3の事業>**

農場の分割管理に当たり追加で必要な施設（赤破線）のイメージ



**<事業の流れ>**

交付（1/2以内）





## 2024年～2025年シーズンにおける 高病原性鳥インフルエンザ発生に係る疫学調査結果について

### 9月中までに防疫体制の整備を！

#### — 全ての従業員・外来業者での衛生対策の徹底を —

農林水産省は、7月2日、「2024年～2025年シーズンにおける高病原性鳥インフルエンザ発生に係る疫学調査報告書」を取りまとめ、公表しました。その概要を紹介します。

#### (1) 発生の特徴

今シーズンは、昨年10月17日に北海道で初発事例を確認し、2004年に79年ぶりに本病が発生して以降、シーズンで最も早い発生となり、また、5シーズン連続の発生となった。その後、本年2月1日の最終発生までに、14道県で51事例が確認された。そのうち、1月2日から2月1日にかけて確認された愛知県、岩手県及び千葉県の家きん農場集中地域における続発がそれぞれ13事例、4事例、15事例の計32事例と、全体の約63%を占めた。また、51事例のうち9事例が2020年～2021年（以下「20/21シーズン」という。）から2022年～2023年（以下「22/23シーズン」という。）に発生を経験している農場における再発であった。加えて、20万羽以上の家きんを飼養する農場において17事例の発生（採卵用うずら農場1事例を含む）があり、20/21シーズン、22/23シーズンと同様、大規模農場において多くの発生が確認された。

野鳥については、9月30日に北海道のハヤブサで感染を確認して以降、6月25日時点で19道県227事例が確認されている。過去最大の感染確認事例数を確認した22/23シーズンに次ぐ大規模な感染がみられたことから、今シーズンは、過去最大の発生数を記録した22/23シーズン同様、全国的に長期間にわたり家きん農場へのウイルスの侵入リスクが極めて高い状態にあったと考えられた。

#### (2) 侵入経路

農場へのウイルスの侵入については、野鳥の感染が広い範囲で起こったことのほか、続発事例においては、防疫作業時に羽毛や塵埃が飛散しやすいことがリスクとなった可能性も考えられた。

家きん舎への侵入経路については、作業着・長靴の交換、手指消毒の不徹底等や、家きん舎の壁面破損の修繕、家きん舎及び関連施設における防鳥ネットの設置等の不備があり、これらが感染リスクとなった可能性が考えられた。また、基本的な衛生管理が実施されていると考えられている農場においても発生が確認されており、これらの家きん舎への侵入経路については、ウイルスに汚染された羽毛、塵埃等の様々な可能性についても検証する必要があると考えられた。



### (3) 提言

近年の国内及び世界各地でのHPAIの発生状況等を考慮すると、本年も秋以降、国内にHPAIVが侵入する可能性が考えられる。また、6月中旬に北海道の野鳥でHPAI陽性事例が確認されるなど、野鳥における感染確認期間の長期化を考慮すると、春以降も家きんでの発生が継続するおそれがある。さらに、世界的なHPAIの流行により、20/21シーズン以降国内に侵入するウイルスの遺伝子型も多様化し、来シーズン侵入するウイルスの性状等を予測することはできない。これらを踏まえ、従来から行っている対策に加え、

- ① 24/25シーズン同様、9月中の防疫体制の整備とともに、11月～翌年1月を重点対策期間とした対策の徹底
- ② 早期発見・早期通報の徹底
- ③ 地域の農場が協力し衛生管理の水準の向上を図るとともに、農場周辺の不要な樹木の除去やため池の水抜きを行うなど地域一体となった対策
- ④ 農場・家きん舎内へHPAIVを侵入させないため、外部事業者を含め衛生管理区域内での飼養衛生管理の徹底並びに防鳥ネットの適切な使用、鶏舎の適切な修繕及び死鳥・廃棄卵の適切な処分等による野鳥・野生動物の誘引防止
- ⑤ 少なくともHPAIのシーズン中における、フィルター・不織布の設置、細霧装置の使用による塵埃を介した家きん舎へのウイルス侵入リスクの低減対策
- ⑥ 防疫措置の速やかな実施及び防疫作業時のウイルス拡散防止措置の徹底
- ⑦ 既発農場及び周辺地域における飼養衛生管理基準の徹底及び発生を想定した地域での準備
- ⑧ 大規模農場における飼養衛生管理基準の徹底や塵埃対策等の実施及び発生に備えた分割管理の検討等が重要である。

■ [2024年～2025年シーズンにおける高病原性鳥インフルエンザの発生に係る疫学調査報告書](#)  
(農林水産省)

[kakin\\_94-10.pdf](#)



## 中央鶏卵規格取引協議会からのお知らせ

### 令和7年度 鶏卵規格取引研修会 締め切り迫る！

本年度の鶏卵規格取引研修会を下記の内容で受講生を募集中です。応募締め切り日が近づいてきていますので、まだ応募していない方は、早めにお申し込みください。

当研修会は、鶏卵規格取引要綱（農林水産省事務次官通知）に基づき、開催する研修ですので、受講生には鶏卵の格付け責任者（卵重計量責任者）の称号が付与されます。事業所内で資格者の欠員が生じないように複数名の設置を考慮するなどのうえ、応募するようお願いいたします。万が一、資格者の欠員が生じた場合には、表示事項の卵重計量責任者の表示ができなくなりますので、ご注意ください。



#### 記

#### 1. 開催日・場所

- (1) 東京会場 9月 5日（金） 10：00～16：30  
（於）馬事畜産会館
- (2) 京都会場 9月19日（金） 10：00～16：30  
（於）京都 JAビル

#### 2. カリキュラム

鶏卵の情勢、鶏卵の規格と品質、卵重計量責任者の役割と重要性、景品表示法、食品表示法、鶏卵公正競争規約、確認テスト

#### 3. 受講申し込み・申し込み期限

- (1) 受講費用：20,000円（テキスト、昼食代含む）
- (2) 申し込み期限：東京 8月22日（金）  
京都 9月 5日（金）

詳細は、中央鶏卵規格取引協議会のHP（[https://www.jpa.or.jp/chuo\\_root/index.html](https://www.jpa.or.jp/chuo_root/index.html)）に掲載されていますので、ご確認ください。ご応募お待ちしております。

#### 【お問い合わせ】

中央鶏卵規格取引協議会 事務局 [https://www.jpa.or.jp/chuo\\_root/](https://www.jpa.or.jp/chuo_root/)  
Tel：03-3297-5515



## 畜産統計（農林水産省）

畜産統計（令和7年2月1日現在）が公表されました。なお、令和7年は、2025年農林業センサス実施年のため、豚、採卵鶏及びブロイラーの調査は休止されています。

### ■ 畜産統計調査

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/tikusan/>

### ■ 農林水産統計-畜産統計（令和7年2月1日現在）

[https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/tikusan/pdf/tikusan\\_25.pdf](https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/tikusan/pdf/tikusan_25.pdf)



## 統計データ



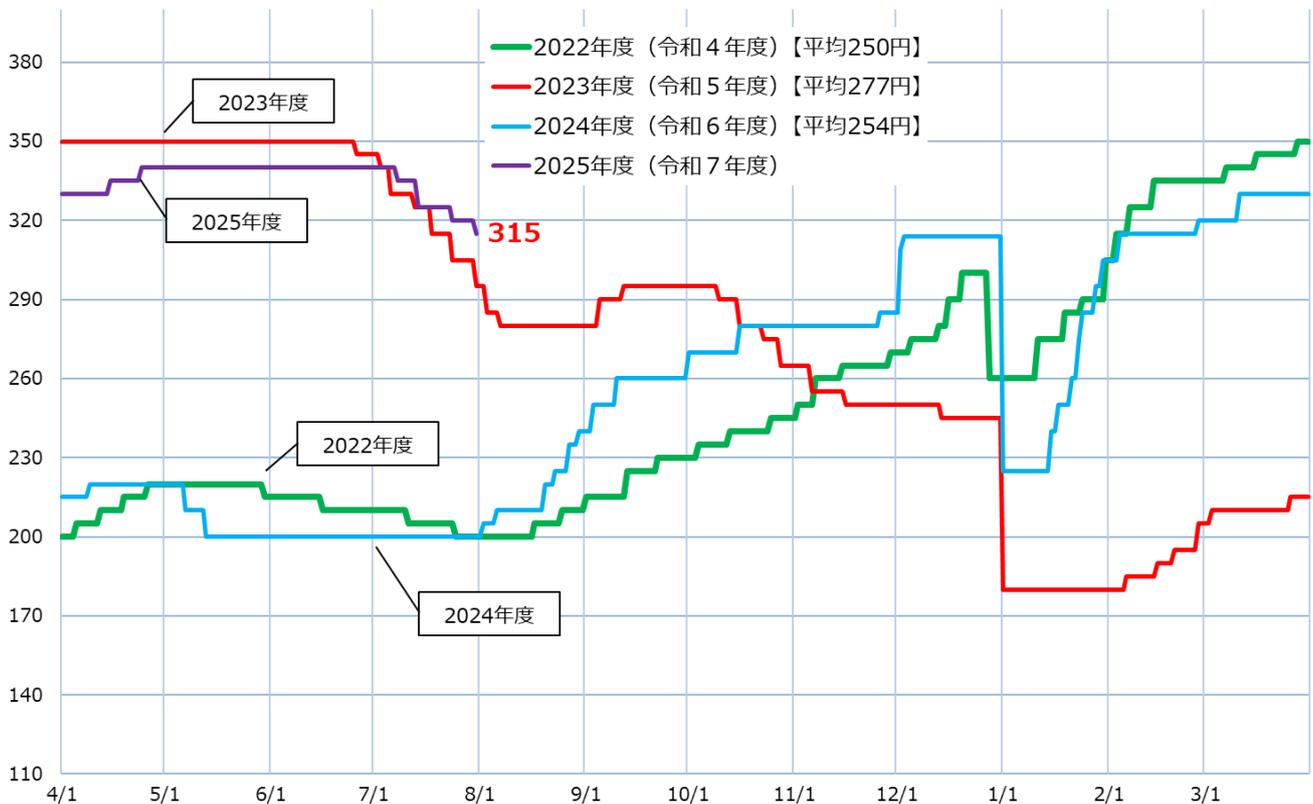
### 鶏卵相場動向 — 過去10年間の7月相場 東京全農Mサイズ 円/kg

	平均値	高値	安値
平成28年	184	213	174
平成29年	191	215	176
平成30年	173	193	159
令和元年	150	168	144
令和2年	153	175	139
令和3年	245	275	229
令和4年	205	232	194
令和5年	320	364	289
令和6年	200	224	194
令和7年	315	365	309
平均値	214	242	201

令和7年7月の鶏卵相場（東京全農Mサイズ）の高値365円は、過去10年の平均値242円を123円上回り、安値309円は、過去10年の平均値201円を108円上回っています。



### 鶏卵相場推移 2022年度～2025年度 東京全農Mサイズ 円/kg



鶏卵相場は6月末から価格が下がり、7月末では315円になりました。



## 鶏卵関係主要計数 ―― 令和7年5月までの年間の主要計数推移

注：鶏餌付羽数は全国推定値

	鶏餌付羽数(出荷)		配合飼料出荷量		家計消費量		鶏卵相場	
	数量(千羽)	前年比	成鶏用		一人当たり		東京全農M	
			数量(千ト)	前年比★	数量(g)	前年比	前年(円/kg)	本年(円/kg)
6年 6月	8,057	83.6%	439	97.9%	906	110.8%	349	200
7月	8,539	91.6%	450	105.4%	837	102.9%	320	200
8月	7,789	89.6%	434	99.2%	864	100.5%	282	217
9月	7,346	91.2%	426	98.9%	885	104.2%	292	256
10月	8,473	96.3%	484	105.0%	902	101.2%	283	275
11月	7,429	85.7%	471	99.9%	887	101.2%	254	281
12月	8,931	93.2%	510	100.4%	970	102.1%	247	290
7年 1月	8,099	107.3%	460	100.1%	897	99.9%	180	258
2月	8,402	110.1%	432	94.5%	860	96.6%	190	315
3月	8,856	106.4%	468	99.9%	932	100.4%	211	327
4月	8,482	102.4%	473	99.4%	905	103.3%	219	334
5月	8,985	111.7%	470	98.2%	920	98.2%	204	340
1年間合計 平均(%)	99,388	97.4%	5,517	99.9%	10,765	101.8%	253(平均)	274(平均)

- ・鶏餌付羽数は、8,985千羽（前年比111.7%）と前年比1.7%増となりました。
- ・配合飼料出荷量は、470千トン（前年比98.2%）と前年比1.8%減となりました。
- ・鶏卵の家計消費量は、920グラム（前年比98.2%）と前年比1.8%減となりました。
- ・鶏卵相場は、前年平均の136円高を示しました。
- ・配合飼料出荷量 前年比★は、生産量の前年比となります。

## 協会活動報告



## 鶏卵生産者経営安定対策事業 (<http://www.jpa.or.jp/stability/>)

### ① 価格差補填事業参加者の

契約数量（単位：t）

令和4年度	1,794,699
令和5年度	1,731,712
令和6年度	1,824,242
令和7年度	1,784,201

### ② 標準取引価格

令和7年7月 333.10円/kg

### ③ 令和7年度

鶏卵生産者経営安定対策事業の基準価格

補填基準価格 230円/kg

安定基準価格 207円/kg

日鶏協ニュース 発行者：一般社団法人 日本養鶏協会

〒104-0033 東京都中央区新川二丁目6番16号 馬事畜産会館内(5階)

Tel：03-3297-5515 Fax：03-3297-5519 発行日：2025年8月6日

編集・発行責任者：石井 馨 (info@jpa.or.jp)